



単元（題材）目標

- 手話について理解する。
- 手話や歌詞に合う動きを使って歌うことができることを知る。
- 声に出さなくても、心で歌うことができることを知る。
- 手話を使って歌を表現することができる。

（1）実施時期

令和2年6月～7月

（2）対象（学年等・人数）

全学年 136名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：音楽専科教諭



（4）実施内容

- ①手話について知る
 - ・手話を使って話す人がいること、なぜ手話が必要なのか、手話を使うときに大切なこと等を児童に説明する。
- ②手話ソング「さんぽ」の模範奏をする
 - ・音楽の教科書「音楽のおくりもの」には、手話と身振りで歌う「さんぽ」が全学年に掲載されている。手話や身振りのイラストもついているので、児童も取り組みやすかった。イラストページを拡大したものを参考に、音楽に合わせて練習した。また、手話の単語が、どうしてその動きになったのか、何からその動きをヒントにしたのか、詳しく説明することでさらに理解が深まったようだった。
- ③音楽集会で発表
 - ・2学期（11月）に音楽集会を開いた際、声を出して歌うことはせず、その代わりに手話ソングを全員で披露した。手話や身振りは勿論のこと、心の中で歌詞を歌っていることが伝わってきた。

（5）成果

- 手話や身振りをを使って表現することで、手話に対する理解が深まるだけでなく、音楽や楽曲に対する愛着や理解の深まりも見られた。
- 全校で取り組んだことで、きょうだいがいる児童は家庭でも練習するなど工夫して教えあい、楽しみながら学習できていた。